

かだい図書(かんそう文をかく本)

3・4年



ゆうとはペンギンの話を、るりは白いへビの噂を、ななこは鏡のライオンを、そうすけはフクロウの占いを、聞いたり、見たり、感じたり…。「ふつうとは？」を決めつけず「自分らしさ」を肯定する、ある町の小学3年生の物語。

「ふみきりペンギン」

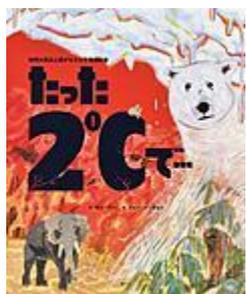
おくはら ゆめ/作 あかね書房



バラクラバ帽をかぶった転入生のトミーがやってきた。なぜトミーは帽子をかぶってるの？あの帽子の下には何が隠されている？ぼくとドゥミサニの退屈な日々は、「バラクラバ・ボーイ」によって大きく変わり…。

「バラクラバ・ボーイ」

ジェニー・ロブソン/作 文研出版



地球の平均気温が2°Cあがると、環境災害がはじまる。地球の気温上昇をとめろ！地球温暖化による環境の変化がもたらす生きものたちへの重大な危機を、絵で直感的にわかりやすく表現した絵本。

「たった2°Cで…」キム ファン/作 童心社



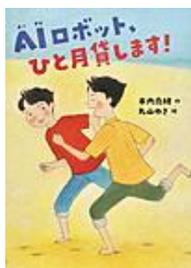
科学者のママ、ゲーム好きのパパ、音楽家のおじさん…。同じ場にも、見ているもの、その見え方は全く違う？食卓を囲む家族の異なる世界を鮮やかに描く、多様性と共感について知る絵本。

「ねえねえ、なに見てる？」

ビクター・ベルmont/作 河出書房新社

してい図書(かんそう画をかく本)

3・4年



未来科学研究所の所長さんが貸してくれた「AIロボット」。ぼくの分身が作れてしまったって。そしてあらわれた、ぼくそっくりのロボット。これからいったい、どうなるんだ…!?

「AIロボット、ひと月貸します！」

木内 南緒/作 岩崎書店



「三角のふるふるとしたやつください」雪のふる寒い寒い晩、屋台にきた厚いコートのお客はいいました。山のふもとのおでんの屋台「雪窓」には、ときたまふしぎなお客がくるそうです。今夜も提灯がともし、店がひらくと…。

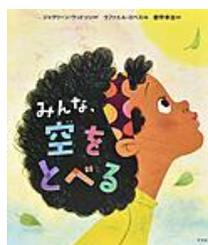
「雪窓」安房 直子/作 あすなる書房



いずれ食肉になる牛たちでも、生きていく間は幸せでいてほしい。生まれてすぐ処分されるはずの牛を愛情もって育て、肉牛として出荷している宝牧舎を紹介し、命を大切にいただくことが動物福祉の第一歩になることを伝える。

「ジャージー牛のサンちゃん」

佐和 みずえ/作 新日本出版社



心の中はいつも自由。空だつてとべる。黒人の姉弟は祖先の黒人奴隷たちが伝えてくれた「人は空をとべる」という知恵を使ってさまざまな壁を乗り越えていき…。

「みんな、空をとべる」

ジャクリーン・ウッドソン/作 汐文社



パパとママは「はやく、はやく」ってほくに言う。おじいちゃんとおばあちゃんは「ゆっくり、ゆっくり」ってほくに言う。「はやく」と「ゆっくり」には生まれたほくは、どうすればいいの？

『はやく』と『ゆっくり』

張 輝誠/作 光村教育図書



運動音痴で目立つのが苦手。みんなと同じように振る舞えない。でもアヤには想像力があって…。小学3年生の女の子の、3つのエピソードを通して、自分は自分のままでいいと理解し、成長していく姿を描く。

「どんなイチゴも、みんなかわいい」

葦原 かも/作 童心社